

「ご入学・進級おめでとう」ございます！

通学路には、新しいランドセルを背負ったピカピカの一年生が加わり、新年度が始まりました。ご入学・進級、本当におめでとうございませう！

四月は、木々も一斉に芽吹き、花咲き競う美しい季節です。ウツギの花(卯の花)が咲くから卯月だというそうです。このみずみずしい卯の花は稲作開始のシグナルで、稲の霊は花にのつて山から田へと降臨します。その降臨を迎えるのが花祭り。この花東は山の神の依代だそうです。この風習におシヤカさまの誕生祝が重なって、花御堂を美しく飾り、誕生仏を安置し、天茶を注ぐ行事(花まつり)となりました。



【神武天皇祭】四月三日

初代天皇、神武天皇が崩御されて、今年で二六〇二年になります。

神武天皇は、風の便りに東の地方で争いごとが絶えず、人々が苦しんで生活しているということ

ひんてんのう
神武天皇



を知られ、それで、争いを鎮め人々が平和に暮らせるよう、荒れている地方を治めるために日向を出発されました。わしの方がえらい、わしの方が強いと争っていた心の荒れた男たちは、神武天皇に立ち向かっていきました。神武天皇が、日の光を背にして進まれている時、天から金色のとびが飛んできて、天皇様の弓の端にとまり光り輝いたので、男たちはあまりのまぶしさに畏れおののき、殺し合いをしな

いで、刃に血ぬらずして降参してしまつたのです。神武天皇が日の光を背にして進んでいかれたのはどういふことかというのと、万物の生命を育む太陽にたとえられる日の大神(天照大神)の「全ての人が平和に仲良く助け合つて生きる」という御心を背負つて、御心を聞きながら私心を捨てて進んでおられたということ。それで心の荒れた男たちは、その尊さを知り、自分たちのあやまりに気づき、殺し合いせず降参したので。

神武天皇が、橿原の地で日本の初代天皇としての位につかれたのは二月十一日。その時、日本国は、天照大神からいただいた国なので、その徳に応え、正しさを養う心をひろめ、そのちに世界が一大家族のように仲良くしていこうという理想を述べられました。四月三日は、お亡くなりになつた日です。

【昭和の日】昭和天皇誕生日 四月二十九日

昭和の日は、激動の日々を経て復興をとげた昭和の時代をかえりみ、国の将来に思いをいたす日。もともとは、昭和天皇のお誕生日でした。

昭和天皇は、「無私」と「慈愛」の人として語り継がれています。その中でも、敗戦後のマッカーサーとの会見の話は、特に有名です。

大東亜戦争(太平洋戦争)で、日本はアメリカに負けました。これまでの世界の戦争では、負けた国の最高責任者は命乞いをするのが普通でした。ところが、昭和天皇は「私の命はどうなつてもいいからどうか日本の国民を助けて下さい」とご自分の命を投げ打つて、日本国民を守ろうとされました。

マッカーサーは、大変感動しました。昭和天皇のおかげで、日本の国はなくならずに守られました。平成の天皇陛下のお父様です。

私の好きな先人の言葉・佐藤一斎・

○太上天は天を師とし、其の次は人を師とし、其の次は経を師とす。【言志録二一条】

(最も優れた人は宇宙の真理を師とし、次に優れた人は立派な人を師とし、第三等の人は経典を師とす。)

○人は須らく忙裏に閑を占め、苦中に楽を存ずる工夫を著くべし。【言志書録一三三条】

(人は忙しさの中にも静かな時のような心をもたなければならぬし、苦しい時には、楽しい時の心になる工夫をしなければならぬ。)

佐藤一斎は、「この人物が居なかつたら、日本の夜明けは無かつたかも知れない。」と言われる江戸時代後期の儒学者です。幕末に松下村塾を開いた吉田松陰の先生に当たる人が、佐久間象山で、その象山の先生に当たる人が佐藤一斎なのです。

佐藤一斎の門下生には、佐久間象山、山田方谷、渡辺崋山などがおり、一斎の著書である「言志四録」は幕末の西郷隆盛、勝海舟、坂本竜馬などに大きな影響を与えました。明治維新の立役者西郷隆盛は、くり返し「言志四録」を読み、特にその中から心の琴線に触れた一〇一条を抜き書き(「手抄言志録」)し、座右の箴としていました。

先人の言葉は、とても簡潔で、それでいてしなやかで、心に響きます。宇宙の真理、そしてどつしりと肚のすわつた師から色んな事を学んでいきたいと思つていました。

(北原明美)

和歌コーナー

てらこやの しぜんきようしつ
せりのはっぱをにおったら いいにおいがしたよ



年長 M・S

☆春の七草を見たりさわったり、におったりして
自然教室は、楽しいですね。

そつえんしき かなしいけれど うれしいな
もうすぐいちねんせい べんきようがんばります



新一年 K・S

☆翔平君、ご入学、おめでとう。新しい友達と
楽しく勉強してくださいね。

習字でね 「世界」とかいた むずかしかった

「世」という字のね せんがむずかしい
ピーピー草 ならすのとってもむずかしい

ならない草が ほとんどだった
きれいだな さくらがさいてる さんぼみち

いろんな色の さくらがあった

新四年 J・R

☆ピーピー草をならすのは、瑠花ちゃんのお母さん
がお上手ですね。コツを教えてほしいです。

菜の花は 黄色くかがやく 星のよう
春の夜に光っている



新五年 Y・Y

☆菜の花の黄色い花びらを眺めて、星を連想した
裕太郎君の感性は、すてきですね。

僕たちも 小学校を 卒業だ

四月になったら 中学生

新中一年 T・I

☆三年生から寺子屋に来てくれている樹君が
中学一年生になります。おめでとう！

桜咲く 中学校で 見つけたよ

春の訪れ 新しい年

新中二年 T・T

☆桜の花が、きれいに咲いて、新しい学年になる
朋実ちゃんや皆を応援してくれているようですね。

せりなずな ごきようはこべら ほとけのざ

すずな すずしろ 自然教室

新中三年 T・A

☆春の七草は、五七五七七の調べですね。最後に
「春の七草」とすると自分の感動を自分の言葉で
表現できませんから、「今日の教室」「寺子屋教室」

「自然教室」「自然教室よ」「自然教室はも」「自然
教室にて」と色々考えてみました。どの言葉が一
番いいでしょう？皆さんも吟味してみてください。

せりの葉を 擦りて香をかぎ 思い出す
みずみずしき 遠(十)き春の日

社会人一年 S・M

今月の論語

曾子、曰く、

「君子は

文を以って、友を会し、

友を以って仁を輔く。」

(現代語訳)

曾子が言った。

「君子は(詩書礼学などの古典の)

学習のために友人を集め、その友人のお

かげで、仁の徳を磨くことができたのだ。」

(解説)

いろいろなことを真剣に学ぶお友達がた

くさんできたらいいですね。みんな

一生懸命に学んでいるうちに、みんなの思い

やりの心も育っていくのです。よい仲間と

一緒に君子を目指せたら、こんな嬉しいこと

はありませんね。

「こども論語塾」 (ポプラ社)より

次回は、五月二十六日(土)、四〇一室です。

(文責・藤波)